



家庭でする学習は学校や塾の宿題であっても家庭学習とし、目安の学習時間までは自主的に学習をすすめるよう指示した。低・中・高各学年部ごとにアドバイスの自主学習の内容を細かく記載し、発達段階に応じて自主学ノートを作ったりしながら自己に応じた目安の学習時間確保をよびかけてきた。

また、はじめを持って取りかかれるように学習開始時刻をはっきり記入させ、学習環境を整えるよう訴えた。

裏面は見えるところに掲示して毎日活用

## ②家庭学習実態調査

夏休み前の配布から約半年、12月には家庭学習の手引きがどの程度定着しているのかを実態調査し、個別懇談会では、全保護者と個別データを話題するようにと共通理解した。

### 【調査結果】

(はい) と答えた%

	低学年	中学年	高学年
●家庭学習のすすめはよく見えるところに はってありますか。	47	39	55
●学習時に音楽やテレビが消されていますか。	72	56	55
●学習開始時刻が守られていますか。	55	40	24
●宿題以外の学習をしていますか。	61	65	72

### ○考察

ほとんどの担任が、調査をして、個人差を感じたと記述していた。個人の宿題を終える早さだけでなく、保護者と共に学習しているかどうかや、塾や通信教材の有無など家庭の価値観の差も大きい。しかし、今回『家庭学習のすすめ』を配布し、繰り返し家庭学習の必要性を子どもたちに伝えたことで、意識の高まりや自主学への意欲が高まった子どもも少なくない。

全校のデータを見ると、学年が大きくなるほど、型にはまった学習スタイルに乱れが生じている。放課後の予定もばらばらで、毎日定刻に学習をするということが難しくなっているということだろうか。ただし、テレビや音楽を消して学習できない事に対しては、決して軽視せず、繰り返し学習環境の重要性を伝えていく必要がある。

しかし、同時に宿題以外の学習ができる割合は学年がすすむにつれ、確実に増えて言っている。塾や通信教材に取り組む子どもが増えるということも原因の一つとしてあげられるだろうが、与えられた課題だけでなく、自主的に予習や復習に取り組める子どもが少しでも増えるよう、家庭とさらに連携を深めながら子どもたちに働きかけていく必要を感じる。